

論文番号 42

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

CESSATION OF ALCOHOL DRINKING AND RISK OF CANCER OF THE ORAL CAVITY AND PHARYNX

禁酒と口腔・咽頭癌の危険性

執筆者

Franceschi-S, Levi-F, Dal-Maso-L, Talamini-R, Conti-E, Negri-E, La-Vecchia-C,

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Int. J. Cancer. 2000 15: 85(6): 787-790

キーワード

口腔癌、咽頭癌、禁酒

要旨

アルコール摂取量と口腔及び咽頭癌の危険性の間には強い量依存性の関係がある。飲酒習慣の時間相 (例えば、飲酒開始年齢、飲酒期間、禁酒期間) が癌罹患の危険性とどのような関係があるかについては十分な評価がされていない。今回、754名の口腔及び咽頭癌の患者 (年齢の中央値: 57歳) と1,755名の対照群 (年齢の中央値: 57歳) で研究を行った。なお、悪性新生物以外の急性疾患で入院中の患者を対照群とした。調査は1992年から1997年までの間、イタリアの2地方とスイスで行われた。調査項目としては今までの飲酒習慣 (飲酒量、飲酒開始年齢、飲酒期間) や喫煙習慣が含まれている。飲酒開始年齢、あるいは飲酒期間については癌の発生に関して影響は認められなかった。一週間の飲酒量が増えると癌の発生する危険性が増加するという関係が認められた。一週間に91 drinks 摂取するものは全く飲酒しないものに比べてオッズ比が11.6であった。禁酒者は現在飲酒している人に比べて1.9倍危険性が高かった。しかし、飲酒だけではなく喫煙も止めた人では、現在飲酒している人に比べてオッズ比が低かった。飲酒中断後、数年間、癌罹患の危険性が高くなるのは、アルコールの働きが複雑で、発ガン過程のいくつかの段階にかかわっているためと考えられる。今後、飲酒を止めることが口腔及び咽頭癌の増加にどうして関係あるかを明らかにする必要がある。